

平成29年度 分田小学校グランドデザイン (求める教育の全体像)

阿賀野市学校教育の重点：基本理念「自立・信頼・共生が拓く、私たちの未来・ふるさとの未来」

[自立] 主体的に学び、協働的に問題の解決に取り組む姿

[信頼] 人と人とのかわりに気づき、支え合う姿

[共生] 互いのよさを認め、高め合う姿

小中学校教育の重点：「児童生徒一人一人の学びを保障し、思考力・判断力・表現力を高める授業改善を行う」

○心の安定を支える家庭

- ・子どもと向き合い対話する
- ・学校と連携を取り合う

○学ぶ意欲を支える家庭

- ・子どもの努力やよさを認め、ほめる

○健康な身体づくりの場としての家庭

- ・望ましい生活習慣を身につけさせる

○豊かな心を育てる場としての地域

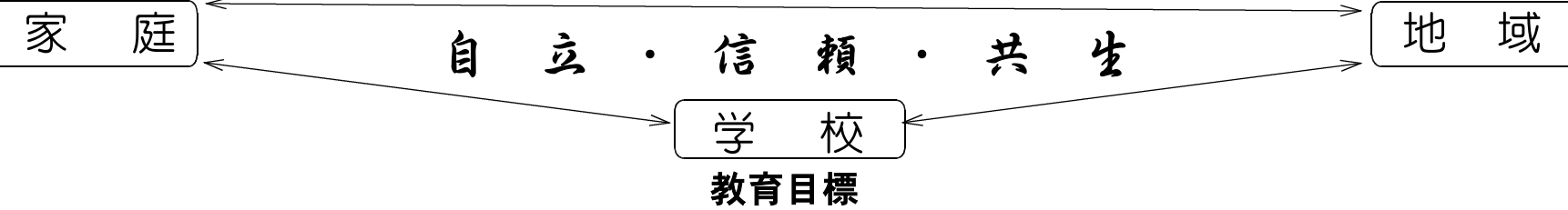
- ・様々な体験活動等を展開する
- ・授業・行事等への活動支援

○安全で、安心な地域

- ・子どもを温かく見守る

○規範意識の実践の場としての地域

- ・日常的にあいさつを交わし合う
- ・よい行いを認め、悪い行いを論ず



たくましく

かしこく

美しい心

育てたい子どもの姿

生活習慣・食習慣を改善し、進んで身体を鍛える子ども

自分なりに考え、確かめようとする子ども

互いを認め合い、共によりよく生きようとする子ども

体力向上 メディアコントロール

学習意欲 学習習慣

自己有用感 かかわり

- 体力テスト8項目の総合評価(A~Eの5段階)でC以上の子どもが70%以上になることを目指します(前期)
- 落ち込みの見られた特定の種目で、記録が向上した子どもの割合が70%以上になることを目指します(後期)

- 学習課題に対して「解きたい」「もっとやってみたい」と言える子どもが80%以上になることを目指します

- 「誰かの役に立っている」と思える子どもが90%以上になることを目指します

そのために

- 体育部が示した体力づくりへ向けた運動を体育の授業や休み時間の遊びに取り入れます。
- 体力テストで落ち込みが見られた体力項目を高める実技研修や運動環境を工夫・活用した活動例をもとに子どもの運動能力のアップを図ります。

そのために

- 授業では、考える視点を教師が明確に示します。
- 子ども同士で学び合う活動の時間を授業で位置付けます。
- NRT学力テスト、前年度Webテストの分析から、正答率の低い学習内容を重点単元に位置付けて習得の強化・補充に取り組みます。

そのために

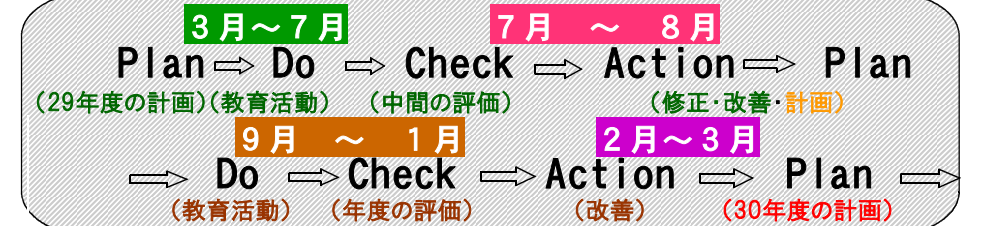
- 全学年を混合した「縦割り班」や2つの学年を組み合わせた「ペア学年」による活動や交流の場を位置付けて、互いを認める活動を各学期に1回以上実施します。また、各学級では係活動等においてどの子どもにも役割をもたせ、成し遂げられるよう支援して、成就感が得られるようにします。
- 自分も相手も大切にする、良好な人間関係をつくるために、全校一斉でのソーシャルスキルトレーニングを各学期に実施します。

- メディアコントロールの取組において、ゲームの時間を目標どおりに削減することができた子どもの割合が80%以上になることを目指します。

- 目標の家庭学習時間(読書も含む)をクリアする子どもが90%以上になることを目指します

目標時間：平日 10分間×学年

学校評価の取組



そのために

- 知育部・徳育部・特別活動部と連携しながら、子どもたちによるメディアコントロールの働き掛けを全校へ行う。
- 学力・元気アップ週間とは別に、毎月メディアコントロールについてチェックする日を設定する。その結果を保護者に知らせて生活改善を図ります。

そのために

- 終会前に家庭学習の計画を立て、一部をやり始める「白鳥(家庭学習準備)タイム」を毎日実施します。(行事で実施できない日は除く)
- 毎学期、中学校の試験時期に合わせ「学力&元気アップ週間」を設け、家庭と協力して取組の充実と改善を図ります。



マラソン大会



縄跳び大会



むし歯予防教室



算数授業



道徳授業



縦割り班結成式



地域クリーンアップ 作戦



小中連携あいさつ運動



読み聞かせ

特別支援教育の充実

- 子どもの困り感の理解と合理的配慮(支援・指導の工夫)
- 学びやすさを考えたUDLを取り入れた授業・学習環境の工夫
- 保護者、関係機関との連携
- 特別支援教育についての家庭への啓発

学校間、家庭・地域との連携

- 家庭・地域への情報発信
- PTA、関係機関との行動連携
- 安全・安心な学校環境
- 中学校区の小中連携による取組
- 地域の方々・保護者等の行事・学習の協力依頼
- ほか